

ルッカ、エルメス、ナポレオン

ブッチーニやボックリーニの生地として知られるトスカーナの古都ルッカ。そのバラツォ・ドゥカーレで、3月7日まで、"Mito e bellezza (神話と美)"展が開催されている。

ルッカは1805年から1814年までの9年間、ナポレオンの妹エリーザが大公妃として嫁いだ町。展覧会は、ナポレオン、エルメス、帝政フランスの軍装品や武器、生活用品の4つのセクションに分かれている。

エルメス・ブランドの基礎を築いた3代目、エミール・モーリス・エルメスが手がけた80枚のスカーフ。その柄に織り込まれたナポレオンとその時代への憧憬を読み解くことが、この展覧会の最大の趣向である。エルメスではこの展覧会開催を記念して、ナポレオンをモチーフにした限定生産のスカーフを売り出した。

美術館来場者番付に見る観光事情



イタリア旅行協会が発表した"Dossier Musei 2009 (美術館来場者番付 2009年度版)"によれば、

2008年にイタリアのミュージアム(美術館・博物館・遺跡・文化/科学施設を含む)を訪れた来場者は、上位30か所(約2,300万人)で全体の約4分の1を占める。

首位はヴァチカン美術館で約445万人。ポンペイ遺跡(225万人)、ウフィッツ美術館(155万人)がこれにつづく。

30施設のうち前年よりも来場者が増えたのは6施設にとどまった。特に減少幅が大きかったのは、ポンペイ遺跡(-12.4%)、ローマ動物園(9位、-13.2%)、カセルタ王宮(26位、-26.4%)、ナポリ国立考古学博物館(29位、-18.8%)など。逆に、科学博物館は全体的に増加傾向にあり、ナポリ科学博物館は前年比+17.5%を記録した。

また、国立施設を除いた市立美術館のみのランキングでは、首位はヴェネツィアのバラツォ・ドゥカーレとなり、以下、コッレル美術館(3位)、カ・レッツォニコ(7位)など、ベストテン中5施設をヴェネツィアが占める。

ジョルジョーネ (1477,78-1510)

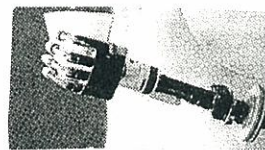


トレヴィーソ近郊カステルフランコ・ヴェネトのMuseo Casa Giorgioneで、4月11日まで「ジョルジョーネ展」が開かれている。没後500年を記念して美術館に改装された15世紀の建物内にはジョルジョーネが描いたフリーズ(帯状装飾)が残っている。

この地に生まれ、音楽と詩を愛し、リュートの名手でもあったジョルジョーネだが、作品に署名を残さなかったために、美術史上もっとも謎にみちた画家の一人とされている。その短い生涯で描いた作品は40点余といわれ、今回、そのうちの20点が展示されている。

『嵐 La Tempesta』や『田園の恋物語 Idillio campestre』に見られる古代の神秘と静けさを湛えた風景。その柔らかな光と色彩は、師であったペリーニをも魅了し、のちのヴェネツィア派に大きな影響を与えた。

Arto Bionico バイオニック四肢



イタリアのすばらしさをアピールするWinning Italy(勝利するイタリア)プロジェクトが外務省のお墨付でスタートしたが、その成果の一つ、「Life Hand」(バイオニック・ハンド)が世界に先駆けて完成された。

これまでのバイオニック義肢は、人工知能が組み込まれた義肢が使用者の動きを覚え、機能するものだったが、この「Life Hand」は使用者の神経と義肢が4つの電極(それぞれ8つの伝達チャンネルを持つ)で繋がれ、脳からの命令に従って「Life Hand」が動く。さらに、人工皮膚の下に組み込まれたセンサーによって、触感を脳に伝達することもできる。

「Life Hand」を利用すると、日常生活や仕事はほとんど完璧にこなせるようになるという。この装置は2008年11月に初めて26歳の青年に試着され、今日まで研究グループ(ピサのサンタンナ大学)が改良を重ねていた。



piastrella antibatterica バクテリアに対抗するタイル

セラミックタイルはイタリア伝統の技であり、どこの家でも台所や浴室に用いられているが、昨年、抗菌作用のあるタイルが新たに開発され、市場に出回っている。

光触媒作用により、光(太陽光・蛍光灯)が当たると空気中の有毒物質を除去し、表面を消毒するという自浄機能がすぐれたこの製品は、通常使われるナノ粒子ではなく、二酸化チタンの微粉体を用いることを特徴としている。

病院、医療施設、学校、体育館の他、日々汚染物質にさらされている大都市のあらゆる建築物に適し、細菌、たとえば自然界に広く分布している連鎖球菌などは86.4%の確率で消滅させる。

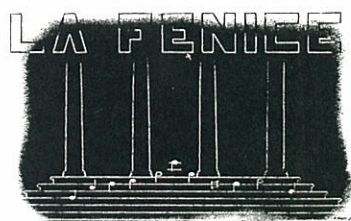
MUSICA

バレンボイム、「音楽に捧げられた人生」

ミラノ・スカラ座、2009/10年オペラシーズン幕開けの『カルメン』は、二人の女性アーティストへの評価が明暗を分けたことで大きな話題となった(「明」は大抜擢されたグルジア出身のメゾソプラノ歌手、アニタ・ラチヴェリシュヴィリ。「暗」は、御大ゼフィレリからもさんざんな酷評を受けた演出家エンマ・ダンテ)。その『カルメン』公演のもう一人の立役者、指揮者のダニエル・バレンボイムが、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場から、「Una vita nella musica (音楽に捧げられた人生)」賞を授与された。

1979年に制定された同賞の第1回受賞者は、アルトゥール・ルービンシュタイン。その授賞式に同行していたのが他ならぬバレンボイムだった。ルービンシュタインと、「未来の天才」と彼が絶賛したバレンボイム、二人のユダヤ人音楽家が30年の時を隔てて一つの賞で結ばれた。記念リサイタルはオール・ショパン・プログラムで行われたが、バレンボイムがヴェネツィアで演奏を行うのはこれが初めてのことだという。

ちなみに、同賞の過去の受賞者は、ベーム、メニューイン、ポリニ、アバド、カルラ・フラッチ、ブレンデルなど。



La Via Francigena ラ・ヴィア・フランチャー・ジェナ



Itinerario culturale del Consiglio d'Europa

1994年、欧州理事会が正式に認める25の「文化街道(Itinerari culturali)」の一つとなった『ヴィア・フランチャー・ジェナ』は、2004年にはスペインのサンチャゴ・デ・コンポステラを目的地とする「サンチャゴ巡礼の路(El Camino de Santiago)」と並んで「EU最重要文化街道」に指定された。

日本でも昔から、伊勢神宮、出雲大社、吉野・熊野大社などへの巡礼が盛んだったが、中世ヨーロッパにおいても、信者たちは「聖地」をめざし、神の国への憧れの旅を実践していた。

イスラム帝国の台頭により、キリストの聖墳墓(Santo Sepolcro)がある『聖地(Terra Santa)イエルサレム』への路が閉ざされていた時代、人々は代わりに使徒ヤコブの埋葬されたサンチャゴ・デ・コンポステラを目指し、また、使徒ペトロとパウロが殉教した地、ローマを目指した。

イギリス、フランス、イタリアを縫うこの巡礼の道はその後、『ヴィア・フランチャー・ジェナ』と呼ばれるようになる。990年にはカンタベリー大司教シジェリックが巡礼紀行を著し、イギリスからフランスに渡り、グラン・サンベルナルド峠を越えてイタリアに入り、パヴィア、フィデンツァからチーザ峠(Passo della Cisa)を経由してトスカーナ(ルッカ、シエナ)を通り、ラツィオ地方ヴィテルボからローマに達するフランチャー・ジェナ街道の順路が明確化された。

道沿いには、旅の安全のための様々な施設(病院、宿泊所、城塞農園、大修道院、ピエーヴェ/大教会など)が置かれ、ヨーロッパ中の人々が行き交い集う「ブルグス(停泊・食事拠点)」は、後に「中世の街(ボルゴ)」へと発展していった。



東方の三博士(王)は、巡礼者たちの守護者とされていたため、『ヴィア・フランチャー・ジェナ』のそこかしこに、そのイメージが描かれている。

イタリア観光省は、国内の聖地や宗教的にゆかりの深い地を巡るといふ新しいタイプの観光プロジェクトを立ち上げ、今年中の実現を予定している。芸術、食文化、景観に重点を置いたインフラが整えられ、徒歩、車、自転車、場所によっては馬でも通れるようにするという。21世紀の巡礼者たちは、当時とは異なり、無料で宿泊したり(金持ちは多額の喜捨をする義務があった)、土間や藁の上に寝たりすることはないだろうが……。



Italiano ⇄ Giapponese イタリア語 ⇄ 日本語

翻訳 Traduzione	通訳 Interpretariato
各種証明書・契約書	同時・逐次通訳
音楽・美術・法律	商談・テクニカル
レター・論文・マニュアル	記者会見・セミナー
ファクシミリ・メール・資料	インバウンド・ホテル

tel: 03-5296-1930 fax: 03-5296-1940

アド・イタリア株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-19-14

AD ITALIA Co., Ltd.

2-19-14 Sotokanda, Chiyoda-ku, Tokyo

ad@aditalia.jp http://aditalia.jp